

山の博物誌 ①ブナ林を歩く

今年 2018 年、7 月に大峰山系弥山・八経ヶ岳、8 月に但馬妙見山のブナ林を歩いてきました。ここ 2、3 年、ブナ林を歩いてもブナの実や殻斗を見かけることほとんどありませんでした。

ブナの結実には数年の周期があるといわれていて、その結実の谷間の年に当たっているのだからと思って、そろそろ今年あたり成り年（豊作の年）などと思いつつ歩いていると、まだ山のブナの樹の下も、妙見山のブナ殻斗が落ちていたわけではありません。やはり今年も成りが、なんか変です。



普通、ブナの実がらのはずです。おか

ろ今年あたり成り年（豊作の年）などと思いつつ歩いていると、まだ山のブナの樹の下も、妙見山のブナ殻斗が落ちていたわけではありません。やはり今年も成りが、なんか変です。熟して落下するのは秋に入ってからか、しいなと思って拾ってみるとすべ

林床に散乱するブナの殻斗

て「しいな」で、またしなびた三角形の実（どんぐり）にはすべて小さな穴があいています。どうも、せっかくの豊作の年なのに、熟すまでにすべて落下してしまったようです。

「ブナの森を楽しむ」（岩波新書、西口親雄著 1996 年刊）という本があります。その中に 1990 年、東北の全域で突然ブナヒメシンクイという小蛾が突然大発生して 6、7 月になって早期に落下してしまっ、その年以來ブナの結実の周期に変異が生じたとの記述があります。

どうやら今のブナ林で同です。東北とシンクイではんが、シンクイの豊作の



年（2018 年）、近畿の山じことが起こっているよう近畿の山では同じブナヒメなくて近縁種かもしれませイ蛾の大発生によって、せっかくの実がほとんど全滅という事

落下した殻斗から実を剥くとすべて虫食い

態になっているのかもしれない。

7 月に登った福井の冠山ではこの現象に気が付きませんでしたので、どれくらいの規模・範囲で起こっているのかはわかりませんが、ブナの林にとっては緊急事態になっているのではないのでしょうか。せっかく久しぶりに沢山の実をつけたというのに全滅とは・・・。

10 月に入って同じ福井県の三周ヶ岳に登ってきました。やはりブナの実を見つけることはできませんでした。落ちていたのは、夏の頃に落ちたと思われる殻斗ばかり。

来年に期待しましょう。今年は実が大きくなるまでに落下してしまったので、きっとブナの木は体力を温存し、来年こそはと気合を入れているのではないのでしょうか。

追記：2019 年 6 月に扇ノ山で丸々太ったブナの実を観察しています。